

平成21年度 教育行政評価 No1 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	家庭教育推進事業 (生涯学習推進事業)	担当	部名	市民協働部
			課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(1) 乳幼児期の子育て支援の充実
個別施策	① 乳幼児期から一貫した相談支援体制の充実

2 事業概要

目的	幼児期における教育は、生涯にわたり人格形成の基礎を培う重要な時期であり、発達や学びの連続性を踏まえ、主体的な活動を引き出す環境に配慮して、まちづくりセンター等を会場に乳幼児を持つ保護者を対象にした「乳幼児期子育て講座」や「子育てサポートリーダー養成講座」を開設し、健やかな「鹿嶋っ子」に成長できる子育てを支援していきます。			
対象及び規模	対象	市民と乳幼児を持つ保護者	規模	1,175人

3 実績

	<p>NPO法人に委託し、まちづくりセンター等を会場に乳幼児を持つ保護者を対象にした「乳幼児期子育て講座」や「子育てサポートリーダー養成講座」を開設し、健やかな「鹿嶋っ子」に成長できる子育てを支援しています。乳幼児期子育て10講座、リーダー養成5講座の計15講座を実施し、参加することにより、子育てに悩む相談や参加者相互に子育てへの理解を深める機会となりました。参加者の意見から受講形態やプログラム内容について好評を得ました。</p> <p>※参加者延べ415人①乳幼児子育て講座(延べ368人)②リーダー養成講座(延べ47人)</p>			
--	--	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	参加者からは事業の定期的・継続的な開催、講座の増設要望や、恒常的に子どもが遊び・親が語れる場の確保の要望がありました。また、事業実施の情報提供の改善が求められました。			
改善策	講座開講の財源の確保に努め、こども福祉課と連携し、恒常的に遊び・語り合う居場所確保の検討を行います。 事業の情報提供の手法を検討し、多くの皆さんが参加できる事業とします。			

平成21年度 教育行政評価 No2 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	読書活動の推進 (学校図書館経費(小学校))	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の育成
個別施策	③ 読書活動の充実

2 事業概要

目的	子どもたちは、主体的・積極的に本を読むことで「言葉を学び・感性を磨き・表現力を高め・想像力を豊かに」していきます。学校図書館で良い本に出会える環境を整え、自ら興味を持って調べ学習にも取り組める環境づくりをします。			
対象及び規模	対象	小学生	規模	3,847人

3 実績

	<p>学校図書館の整備された学校では、図書も整理され子どもたちが利用しやすい環境が整ったことにより、読書量も増えていきます。また、司書教諭と学校司書が連携してさまざまな読書イベントが開催され、子どもたちを読書の世界へ誘っています。</p> <p>学校図書館実施校4校の総貸出冊数は88,267冊で、各校児童一人あたり年間平均59.1冊の成果を上げました。</p>			
--	---	--	--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	学校図書館に人的な配置やシステムの導入、蔵書の充実を図ったとしても、活用しなければ効果がありません。今後は、早期に小学校12校を同一の環境に整備するとともに教員と学校司書との連携を検討し、より充実した活用方法を見出していく必要があります。			
改善策	学校図書館司書について活用方法の研究を行い、今後の整備計画の策定に反映させていきます。また、学校図書館図書標準冊数に届かない学校については、平成24年度を目標に整備をしていきます。			

平成21年度 教育行政評価 No3 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	フロンティア・アドベンチャー事業(青少年育成対策経費)	担当	部名	市民協働部
			課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の育成
個別施策	(4) 体験学習の充実

2 事業概要

目的	青少年の心の豊かさやたくましさを育みながら、生きる力や忍耐力、自立心、協調性を養うために、福島県国立那須甲子青少年自然の家(キャンプ場中心)にて、小学校5年生及び6年生を対象に10泊11日の長期の自然体験活動を実施していきます。			
対象及び規模	対象	小学校5年生及び6年生	規模	70人

3 実績

<p>青少年の心の豊かさやたくましさを育みながら、生きる力や忍耐力、自立心、協調性を養うために実施している本事業は、市の重点事業として位置づけ、福島県国立那須甲子青少年自然の家(キャンプ場)にて小学校5年生及び6年生を対象に10泊11日の長期の自然体験活動を実施しました。毎年、定員70名に対して120名前後の応募があり、保護者及び児童から高い評価を受けている事業です。さらに参加した児童保護者へのアンケート調査を行い、実行委員会にて事業実施後の事業の課題・反省点を各担当班別に総括し、次期事業へ活かしています。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	指導者の多くは、市内各小学校の教諭であり、一般指導者の拡充が課題です。
改善策	本事業の参加者は、小学校5年生及び6年生であり、市内各小学校教諭の役割は重要です。また、一般指導者の拡充は、教諭の負担を軽減することが狙いであり、継続した事業を展開するため青少年育成団体との連携がますます重要となります。このため、各団体からの指導者協力について協議を進めていきます。

平成21年度 教育行政評価 No4 (自己評価)

事務事業名 (予算事業名)	小学校4年生宿泊学習事業(小学校教育研究費)	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の育成
個別施策	(4) 体験学習の充実

2 事業概要

目的	小学校4年生において宿泊学習を実施し、児童相互のコミュニケーションや自立心、協調、問題解決力等、さまざまな面での精神的成長を図ります。			
対象及び規模	対象	小学校4年生	規模	642人

3 実績

<p>宿泊地は、茨城県立白浜少年自然の家を中心に利用するので、施設使用料等の費用は、安価におさえることができました。自然の中での集団活動により、児童のたくましさや社会性を身につけることができ、併せて費用の全額を市が負担することで、保護者の経済的負担の軽減が図られています。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	市費を投入していることから、事業実施により、児童にどのような変化が見られたかを検証する必要があります。
改善策	実施した活動内容や実施後の児童の変化などについてアンケートを実施し、児童への効果を検証します。